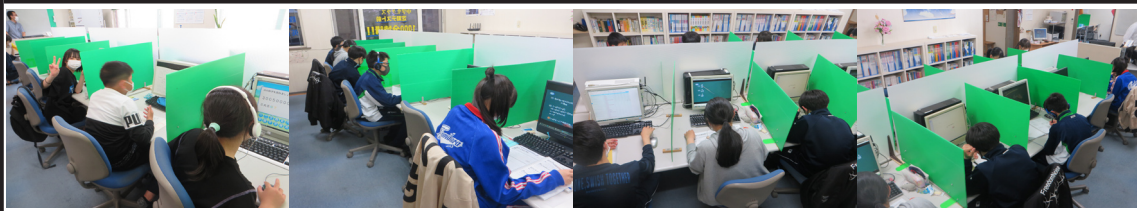
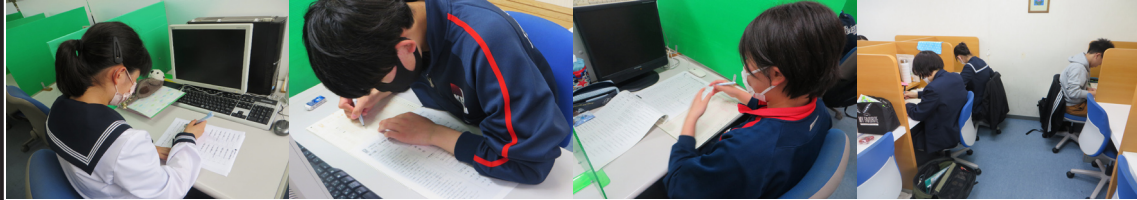


ホップ・ステップ



◆ふだんの学習のようす◆

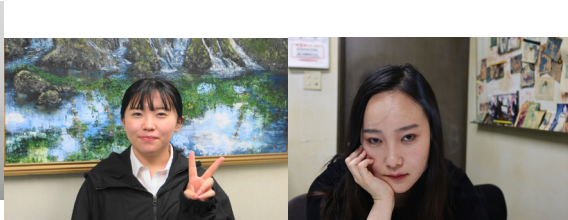


◆7月8日の漢字検定に向けての対策

高校生もテスト勉強です

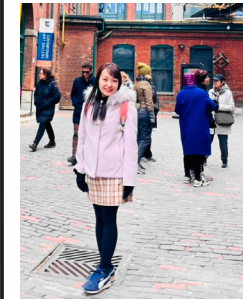


28期生で看護学生1年生の藤井彩華さんもテスト勉強に来ました!



25期生の福士千悠さん、江南高校での教育実習に来ました。新しく始まる公共という社会の科目だそうです。

21期生で役者志望の増山紗弓さん、1年ぶりくらいに顔を見せました。富士通の仕事をしながら演劇も!



14期生でカナダで英語を勉強中の工藤愛裕詩さんから絵はがき届きました



7期生の山岸(旧姓)美幸



4期生で1月にJAFを辞めさんも1年ぶりくらいです。保険の仕事について内藤裕孝君、来年はフリーランス!

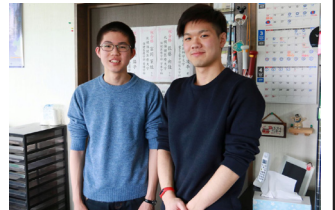
いよいよ7月。そして夏休みです!
あつという間に1年の半分が過ぎ、第1回の定期テストも終わりました。1学期ももうすぐ終わり、夏休みに入ります。夏休みはこれまでの学習の復習にしっかり取り組みの出来る期間です。
定期テストの結果から分かるはずですが、そして勉強するには明確な目標とやる気が必要です。なんとなく勉強していても結果には表われませんね!
さらに、将来の目標のため学力は付けなければなりません。近年言われている非認知能力を身に付けなければ格差社会では通用しません。
非認知能力とは、やり抜く力、自分の能力を信じる。自己肯定感がある、やる気がある、集中力、あきらめない、粘り強い、客観性、リーダーシップ、他の人と対話・協調性、楽天的、失敗しても悩まない、失敗から学べる、創造力・直感力がある、工夫できるなどです。
皆さんはどうでしょう?

編入試験に合格!
27期生で釧路高専電子工学科5年生の村上渚君が、国立の豊橋技術科学大学の難関、グローバル技術科学アーキテクト養成コースへの編入試験に(募集5名)合格しました。
豊橋技術科学大学へは、今年4月に同大学院を卒業し、眼科医療分野の企業 株式会社ニデックに就職した22期生の斗内凌平に次いで二人目の快挙です。
近年、塾生の高専生の中で大学を目指す学生が増えてきています。もちろん高専生の就職率は100%です。しかしグローバルな世界、グローバルな企業に対応できるような、人間関係やスキルアップに向けて大学で学ぶのです。
この二人に共通するのは、技術系でありながら音楽や映像など色んな事に興味や関心を持ち、積極的に取り組む姿勢です!



◆6月も皆さんからの差し入れありがとうございます!

下の写真は、4年前の3月、斗内君が豊橋技術科学大学の合格を報告に来てくれた時に、高専1年生になった村上君と一緒に撮った写真です。
それから5年後の来年度の4月には村上君も豊橋技術科学大学の学生となるのです。
みんなも自分の3年後、4年後、そして将来に向かっていけるのです。
圧倒的に文系が不利な時代で、就職は相当厳しいようです。出来る限り理系に進んだ方がいいですね。裏面の記事にもあるように世界が目指す高専です。国立大学への推薦入学も可能です。
全国に57校しかない高専が釧路にあるのです。塾生のみならず、特に男子生徒には高専を目指して欲しいですね。IT、AIなどで技術者が圧倒的に不足し、世界に後れをとっている日本、自分の力を発揮できる仕事はたくさんあります。ぜひ高専を選択肢にしては。やる気さえあれば大丈夫です。
今年、21期生(26)で高専の電気工学科卒業を卒業し北海道電力に就職した二人のうち一人はすでに退社し東京の大手企業に転職、もう一人も北広島島のドーム球場完成後退社します。
理由は北電には未来がないということだそうです。昔は北海道の超優良企業でしたが、電力自由化と原発が大きく影響しているようです。
会社がどうなるかわからない時代ですが、技術の必要性、重要性は変わりません。世界が必要としているからです。
高専卒だからこそ出来るのです。格差社会です!



帰りの一題は考える漢字のパズル!
左の図のようなこのパズルは縦、横一列に1から4の数字を一つずつ入れ、合計が太枠の左上の数字になるようにするものです。
ひたすら考えることで頭をフル回転させるパズルで、思考力や集中力、粘り強さが身に付きます。
漢検の勉強やこのようなパズルは直接学力の向上には結びつきませんが、今の子どもたちが苦手とする考える力を培うのには、とても効果があります。
知識や学力には関係がないので、みんな平等に取り組みることが出来ます。徐々に難しくなっていきます。

5	5	4
	5	5
3		3
5		

7月の予定

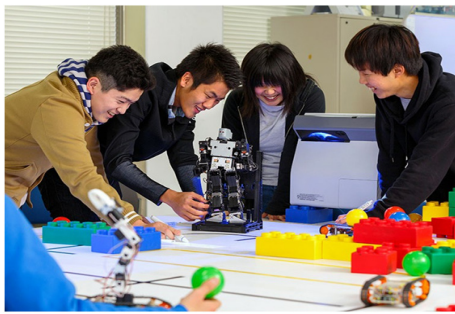
31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金
休塾	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座	※通常授業	※通常授業	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座	★第一回漢字検定★	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座	夏期講座
														海の日 休塾																

携帯・スマホ持ち込み禁止!

過保護・過干渉は子供をダメに!

大きな声であいさつを!

世界が注目、高専とはどんな学校？ スポーツ界にも芸能界にも出身者が



仙台高専でロボティクスを学ぶ学生たち

高専の略称で知られる高等専門学校が、「KOSEN」として、海外でも注目を集めています。中学を卒業した若者たちを、モノづくりの専門家に育てる日本独自の教育機関ですが、そもそも、どういった経緯で生まれたのか、教育内容にどんな特長があるのか、卒業後の進路は……。高専とは、どんなところなのか、紹介します。

日本の経済成長がめざましかった1950年代後半、産業界から即戦力の技術者の育成を求める声が上がった。そこで新たに作ったのが、15歳から20歳まで、5年間一貫の工学教育をする高等専門学校（高専）だ。

62年に19校でスタート。現在、57校（国立51、公立3、私立3）ある。毎年入学者は1万人で、同世代の人口の約1%だ。

1年生から、専門分野の授業があるのが、大きな特長だ。「機械系、材料系」では、ものづくりの基礎となる機械の設計や材料の性質を学ぶ。「電気・電子系」は、家電やロボットなどの機器を制御する知識や技術を身につける。コンピューターシステムやソフトウェア、プログラミングなどについて学ぶ「情報系」もある。



和歌山高専でロボティクスを学ぶ学生たち

経営戦略や会社法などを学ぶ「経営情報学科」や「国際ビジネス学科」「ビジネスコミュニケーション学科」を設けている学校もある。英語や歴史などの一般教育科目もあり、学年が上がるごとに、専門科目の割合が増えていく。高専は、就職に強い。

国立高専の卒業生は、希望者のほぼ

全員が就職できている。旭化成、ENEOS、東海旅客鉄道（JR東海）など大手企業に入るケースも多い。隠れた進学校でもある。国立高専の卒業生の2割強



和歌山高専で仮想現実（VR）の技術を学ぶ学生

は、大学の主に3年次に編入する。進学先は、高専生を主に受け入れる二つの技術科学大（長岡、豊橋）のほか、九州大、筑波大、東工大、東大など幅広い。高専の「専攻科」（2年制）に進み、さらに高度な技術を学ぶ学生も2割弱いる。大学では、「高専出身者のほうが、高校卒の学生よりも優秀」との評価が少なくない。

長岡高専を卒業し、筑波大でも学んだIT企業「フラー」の創業者、渋谷修太氏は「当たり前」だという。

「高専では、1年生からハードとソフトの両面のスキルを基礎からたたき込まれる。一方、高校から大学の工学部に進んだ学生が工学を本格的に学び始めるのは20歳前後。机を並べた時点で、エンジニア歴で大きく差がついている」



長岡高専で旋盤加工の実習中の学生

ただ、「光」ばかりではない。大学に比べて私学が圧倒的に少ないため、学生数は伸びず、知名度は低い。外からの風が入りにくく、閉鎖的になりがちな面がある、との声もある。

「高専卒は、専門知識では大卒にひけをとらないのに、給与は大卒より低い」という指摘もある。

5年間学んだ後に得られる学位が、短大卒と同じ「準学士」であることも関連しているようだ。「『高専卒就職の闇』と言われる。もちろん、会社によって事情は違うのだが」とある高専OBは言う。

高専出身者は、さまざまな分野で活躍している。

経済界では、日立製作所の東原敏昭会長、日揮の石塚忠社長、Zホールディングスの藤門千明専務執行役員らがいる。ポケモンの生みの親のゲームクリエイター、田尻智さんもその一人だ。学界には、東工大の益一哉学長、静岡大の日詰一幸学長らがいる。有名人では、カーリング五輪代表の鈴木夕湖さん、バンド「Official髭男dism」のギタリスト、小笹大輔さんも高専出身だ。



北京冬季五輪のカーリング女子日本代表の鈴木夕湖さん（右から2人目）は旭川高専の出身＝20年2月20日、北京・北京国家水泳センター



Official髭男dismの小笹大輔さん（左から2人目）は、松江高専の出身 19年7月11日 東京都港区

学費は、入学金が8万4600円、授業料は年額23万4600円と抑えられている。熊本大教授、同大学長を経て2016年4月に国立高等専門学校機構理事長に就任した谷口功さんに、これからの高専を語ってもらった。



——高専で学ばれたことも、教壇に立たれたこともありません。どういう経緯で国立高専を束ねる組織のトップになったのですか？

熊本大学長を退任後、高専の教育のあり方を議論する文科省の有識者会議の

委員になりました。そこで高専の先生方から現状について話を聞くと、『大学にしてほしい』というニュアンスのことを言われる。要は、大学卒の学士の学位を高専が出せるようにしてほしい、と。私は『大学とは違うルートでいろんな人材を育てようというのが、そもそもの高専の目的。大学になったらその他大勢になる』と意見しました。こんなこともあって、文科省から『じゃあ、理事長をやらせてみよう』となったのかなと思っています。

高専の授業の3～4割は実習・実験です。そこまでやらないと学生は『スキルを身につけた』と感じません。人間、スキルを身につけると自信を持つものです。施設も充実しています。現場力がある、というのは高専の特徴のひとつ。それがなくなったら、『大学と同じ。高専は必要ない』となります。

——高専機構はグローバル化に力を入れています。

海外から『高専の教育を教えてほしい』との申し出をたくさん頂きます。講義をやれば何かできるようになる、と思われているので、『そうではありません。実習・実験が大事なのです』と口を酸っぱくして言っています。

高専の『輸出』は、外国の若者を母国の発展に貢献できるように育てるのが狙いですが、それだけではありません。日本の高専教育のレベルをあげるためでもあります。高専は国内ではそれなりに認知されていますが、卒業生がいない海外ではそうではありません。先生たちは『大学とどこが違うの』と聞かれたときに『自分たちは何をやってきたんだらう』と気づき、良いところ、欠けているところが見えてくる。高専とは何か、を考えるにあたって、国際展開はものすごく役に立っています。

——本格的な海外校のタイ高専は開校4年目を迎えました。

1期生のときは、募集定員24人に対して309人の応募がありました。いまでも競争率は数十倍です。タイ高専に期待しているタイ政府が『宣伝』してくれていることも大きいですね。学校の成績という点で言うとトップ層の若者たちです。

彼らのほとんどが高専卒業後は大学に進むことを考えているのが心配です。高専が大学へのひとつのルートになりかねません。日本でも大学編入者はいますが、多くは編入目的で高専に入っているわけではありません。実習・実験をちゃんとやり、高専とは何かを分かってもらわないと、タイ高専は本当の意味での『高専』にならない可能性があります。

——重厚長大向けの技術者育成のイメージが強い高専ですが、最近では「起業家育成」を打ち出す高専が出てきています。

学生は『社会のお医者さん』を目指してほしい。学校にこもらずに社会の『困りごと』に耳を傾け、何ができるかを考える。そこから新しい技術のつながりの発想が生まれるのです。これは起業家育成のプロセスでもあり、高専のミッションのひとつだと思っています。

いまある産業の技術を習熟しても、その産業が将来伸びるかどうかわからない。期待通りでなかったら、自分で創っていくしかないのです。そういう人材を増やしていかないと、日本経済は成長できないでしょう。

——就職に強いし、進学もできる。これまでの路線ではだめなのですか？

『成功は失敗のもと』なのです。つまり、実績も残しているし、今のままでいいじゃないか、と。でも、そうしていると世の中の変化についていけなくなる。多くの企業には高専生の実力を認めていただいています。最近、一部の企業の方からは、期待が大きい証拠でもあるのですが、『高専生は力がなくなってきた』とも言われるようにもなりました。高専は今年、還暦を迎えました。これを機会にこの2、3年で意識改革を進めないと、次の60年はないと思っています。（聞き手・織田一）